

主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善について（小・中社会）
「学習者主体の授業」の提案
 ～令和4年度鹿児島学習定着度調査を活用して～

義務教育課

小学校

令和5年1月に実施した鹿児島学習定着度調査の結果では、「知識・技能」の問題の平均通過率は82.4%、「思考・判断・表現」の平均通過率は67.7%でした。

「知識・技能」に関する問題は、概ね定着が図られています。さらに地名と場所等を確実に定着させるために、定期的な復習を行うなど、工夫が必要です。

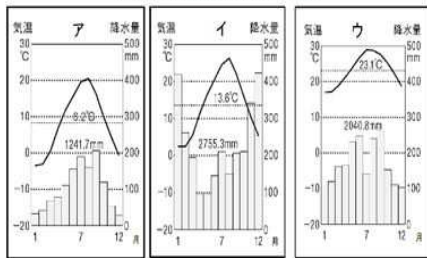
「思考・判断・表現」に関する問題は、雨温図の特徴を説明する問題で通過率が61.0%、水産業において、資料から読み取り自分の言葉で説明する問題で通過率が55.3%と、低い結果となっています。例えば、雨温図については、どこに着目すればいいかなど、ポイントとなる部分に児童が自ら気付けるような指導の工夫を行うことが大切です。

特徴ある問題から

【小5 ② (3)】平均通過率：61.0%

③ 資料2は、三つの都市の気温と降水量を表したグラフです。資料1を参考に、新潟県上越市の気温と降水量を表したグラフを次のア～ウから選び、記号で書きましょう。また、そのように考えた理由を、□の中に書きましょう。

（資料2）各都市の気温と降水量



記号

理由

【出題の意図】

気候の特色を単に答えるだけの問題ではなく、3つの雨温図から、上越市を表している雨温図を選択し、上越市の気候の特色を説明する問題を出題しています。その際、上越市の人々の生活と環境を学習する中で、冬に雪が多く降るという事実を学習していることを踏まえて、また、雨温図からもその特徴を読み取って、該当する雨温図を選択し、その理由を説明することができる思考力・判断力・表現力が図られるよう、出題しています。

【授業改善のポイント】

- まず、人々の生活と環境を学習する中で、その土地の気候の特色を捉えさせます。
- 次に、雨温図では、右記の読み取り方のポイントを確認しながら学習すると理解が深まります。（算数において、グラフの学習をします。社会ではグラフの特徴を読み取ります。）
- さらに、（気温と降水量の関係から）その場所の気候にはどんな特徴があるのかをまとめたり、他の場所の気候と比較したりするなどして定着を図ります。

授業づくりのポイント

【小・中共通】



社会的事象そのものが学習内容となっている社会科においては、**社会との関わりを意識した課題解決的な学習活動**を取り入れた授業実践が期待されている。

具体的には、社会的な見方・考え方を働かせ、グループ活動などを取り入れながら多面的・多角的に考察・構想し、その過程や結果を説明したり論述したりする授業である。

- 生きて働く知識の習得場面と思考力・判断力・表現力等の育成場面を、バランスよく取り入れる。毎時間、考えさせる場面を必ず入れ、「主体的・対話的で深い学び」の授業を実践する。
- ICTを積極的かつ効果的に活用する。また、新聞記事等を活用して、タイムリーな話題を提供し、政治等に関心をもたせる。併せて、自分たちの住んでいる郷土についても関心をもたせる工夫をする。
- 定期的に復習する場面を取り入れる。小テスト等で重要語句などの基礎・基本の定着を図る。また、かごしま学力向上支援Webシステム上の評価問題等で思考力・表現力の育成を図る。

雨温図の読み取り方

5つのキーワードを意識させましょう。

キーワード	折れ線グラフ	棒グラフ
1 平均	・平均気温は何度？	・平均降水量は何mm？
2 高い（多い）	・最も気温が高いのは何月？	・最も降水量が多い月は何月？
3 低い（少ない）	・最も気温が低いのは何月？	・最も降水量が少ない月は何月？
4 差	・最も気温が高い月と低い月との差は何度くらい？	・最も降水量が多い月と少ない月との差は何mmくらい？
5 特徴	・気温の変化にはどんな特徴があるか？	・降水量にはどんな特徴があるか？

中学校

令和5年1月に実施した鹿児島学習定着度調査の結果では、中1社会の平均通過率は68.4%で、このうち「知識・技能」の問題は70.6%、「思考・判断・表現」の問題は68.4%でした。

中2社会では平均通過率54.9%で、「知識・技能」の問題は55.3%、「思考・判断・表現」の問題は54.2%でした。

「知識・技能」の問題については、中1では大問1(3)、時差に関する問題の通過率が57.8%、中2では大問6(2)、江戸時代の政治改革を選択する問題の通過率が23.6%と低く、課題が見られました。地図帳を活用し、地名と場所を関連付けしたり、政治改革の特色を比較させて、その違いを説明させたりするなどの工夫が必要です。

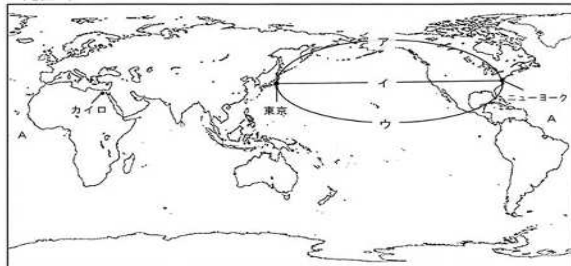
「思考・判断・表現」の問題については、中1では大問3(3)、インドの経済が急速に成長している理由を説明する問題の通過率が52.6%、中2では大問5(3)、豊臣秀吉のキリスト教への対応を説明する問題の通過率が34.2%と低く、課題が見られました。意図的に資料の読み取りや資料の比較を行わせる必要があります。

特徴ある問題から

【中1 1 (3)】 平均通過率：57.8%

1 下の地図や資料を見て、あとの問いに答えなさい。

(地図1)



(3) 地図1中の東京とカイロの時差は何時間になるか。次のア～エから一つ選び、記号を答えよ。ただし、経度135度で1時間の時差が生じ、日本の標準時子午線は兵庫県明石市を通る東経135度、エジプトのカイロは東経30度とする。

ア 7時間 イ 9時間 ウ 11時間 エ 13時間

【出題の意図】

時差が生じる原因を単に答えるだけの問題ではなく、東京とカイロ間の2地点の時差を求める問題を出題しています。その際、毎年、通過率が低い(R3においては、平均通過率53.2%、東経と西経にまたがる2地点の時差を求める問題を出題)結果であったことから、まずは、東経と東経の2地点間の時差を求める問題を取り扱うことで定着を図ってほしいと考え、出題しています。

【授業改善のポイント】

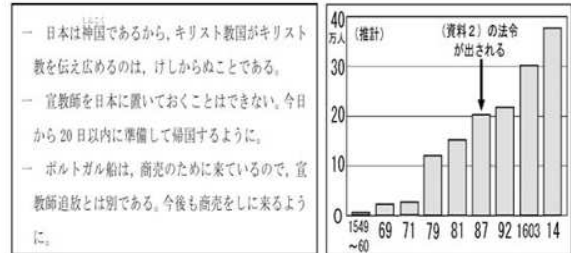
- 生徒が時差の概念をイメージできるようにします。地球儀や掛け地図を使ったり、映像を見せたり、ICT(ソフト等)を活用するなど、授業の工夫を図ります。定着を図るために、理解させた後は演習問題に取り組みさせます。
- 手立てとして
 - 1 時差が生じる原因を考えさせます。
 - 2 生徒がイメージできるようにします。例えば、新年を迎える順番は、①日本②イギリス③アメリカが理解できれば、時差をイメージしやすくなります。
 - 3 時差を求めさせます。
 - (1) 東経と東経の2地点の時差を求める。
 - (2) 東経と西経の2地点の時差を求める。
 - (3) 日付変更線を含む場合など、様々な問題に取り組む。

特徴ある問題から

【中2 5 (3)】 平均通過率：34.2%

(4) 略年表中Dについて、次の資料2は豊臣秀吉が出した宣教師の国外追放を命じた法令、資料3は日本のキリスト教の人数の移り変わりを表している。資料2の法令が出た後も、キリスト教の人数が増えているのはなぜか、資料2・3を基に、「キリスト教」という語句を使って説明せよ。

(資料2) 宣教師の国外追放を命じた法令(一部要約) (資料3) 日本のキリスト教の人数の移り変わり



【出題の意図】

豊臣秀吉のキリスト教への対応を選択肢の中から単に選ばせる問題ではなく、豊臣秀吉のキリスト教への対応について、資料を基に説明する問題を出題しています。その際、ザビエルがキリスト教を伝えてから、江戸時代に鎖国を行うまでの間、その時々でキリスト教への対応が変化しており、豊臣秀吉がキリスト教に対して、どんな対応を行ったか、また、そのように対応した理由を、資料やグラフから読み取って説明できる力を身に付けるよう、出題しています。

【授業改善のポイント】

- キリスト教への対応がどのように変化したか、原因、理由、背景等を考えさせます。
- 流れを理解させるとともに、授業の中で資料やグラフを活用し、読み取りについても慣れさせます。

詳細な分析・説明について

鹿児島学習定着度調査の分析、問題を活用した授業づくりの詳細については、下の二次元コードから、ホームページ等をご覧ください。



令和4年度鹿児島学習定着度調査結果報告



一問題解説動画(県総合教育センター「学びの地図」)